道徳だより

令和４年　５月
七塚小学校
校長　　宗廣　進一
道徳担当　山本美代子

心を育てる道徳の授業

これまでの道徳の授業が「特別の教科道徳」として教科化され，５年目を迎えました。子ども達は，週１回の道徳の時間だけでなく，いろいろな教科，行事などの学校生活の中で心を成長させていっています。ですが，道徳教育は，学校だけでできるわけではありません。家庭・地域・学校が協力して進めていく必要があります。そこで，この「道徳だより」を使って，学校での道徳教育への取り組みの一部を紹介しながら，保護者の皆様，地域の皆様と一緒に子ども達の豊かな心の育成について考えていきたいと思います。ご家庭での心の教育のヒントにしていただけると幸いです。

今回は，２年生の授業の様子についてお伝えします。

主題名：えこひいきしないで　　教材名：「三びきは友だち」

《ねらい》　登場人物がとってしまった言動とその気持ちを理解し，その言動が過ちであったことに気付いていく姿から，誰に対しても，公正公平に接していこうとする心情を育てる。

《あらすじ》

仲良しのぴょんたとわんたのところにぽんきちが来て一緒に遊んでいると，ぽんきちとわんたがころんでしまい，くまおじさんの花壇を壊していまいました。ぴょんたはわんたのことは言わず，ぽんきちがやったと答えます。わんたが自分からくまおじさんに謝りに行くのを見て，ぴょんたも謝りに行った，というお話です。

教師の問いかけ

ぴょんたは長い間下を向いて，何を考えていたのかな。

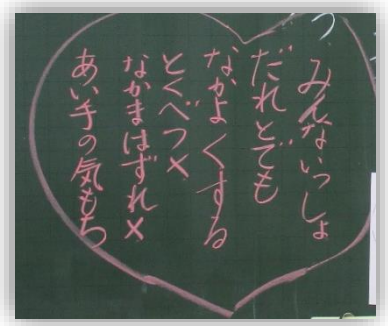
児童の考え

ぼくも一緒にいたから，ぼくもあやまろう。

ぽんきちのせいにして悪かったな。わんたにも悪いことしたな。

児童のふり返りより

- 仲良しな人だけ「特別」はいけないとわかりました。
- 仲良しの友達だけを助けるのはいけないとわかりました。
- 誰とでも仲良くすることが大事だとわかりました。



子ども達は友達との「学び合い」を通して，特別扱いされた方も嬉しくないことにも気付き，自分の好き嫌いにとらわれず誰にでも同じように接することでみんなが気持ちよく過ごせることのよさについ て，自分の考えを広げたり深めたりすることができました。人によって違った態度をとらないために，「誰とでも仲良くする，仲間外れをしない，相手の気持ちを考える」など，これから大切にしていきたいことをしっかり考えていました。